

平成30年度スカウトソング研修会実施概要報告

2018. 11. 20 現在

期 間：平成30年11月10日（土）13：00～11月11日（日）12：00

場 所：熊本、国立阿蘇青少年交流の家

参加者：6県連盟21人（男性 7人、女性 14人）

初参加：17人 参加経験者：4人

部門別内訳：BVS指導者 5人、CS指導者 6人、BS指導者 6人、VS指導者 1人、RS 1人、団指導者 2人

スタッフ：主任講師 石原 徹 スカウトソング特別委員会 委員長

鹿ノ内 美智子、品田 千絵保、山崎 裕、各スカウトソング特別委員会委員

熊本県連盟 尾崎 幸助、外戸口 利行、大山 俊博、那須 久美子、安田 憲世、伊波 邦子

費用：参加費 一人あたり8,000円（施設代、資料代、夕食・朝食代 他、消費税を含む）

プログラムと主な内容：

11月10（土）

13：00 受付開始

13：20 開会式、オリエンテーション

国立阿蘇青少年交流の家の講堂に集合、開会式とオリエンテーションを行いました。

13：45 §1 楽しい集い（楽しく歌おう）（30分）

担当：鹿ノ内

参加者の緊張をほぐし交流を深めるため、歌を使ったアイスブレイキングやゲームを行い、歌の楽しさを学びました。



14：15 §2 セレモニーと歌（75分）

担当：石原

セレモニーで歌う歌について、連盟歌「花はかおるよ」の歌い方と指揮の仕方、技能章「スカウトソング章」履修支援のポイントを学びました。



15：30 休憩（10）

15：40 §3 カブ・ビーバーと歌（80分）

担当：品田

ビーバーとカブスカウト歌集を使い、それぞれの年代にあった歌の取り入れ方を学びました。スカウトが飽きないよう手作りの鳴り物を使用したり、ストーリー仕立てにして伝える方法などを学びました。

17：00 タベのつどい（つどいの広場）

他団体との交流、連絡のため、全参加者が集まりました。

17：20 §4 イエールとアクションソング（55分）

担当：山崎

ビーバー、カブスカウト向けのアクションソング、ボーイ、ベンチャー年代ができるイエールを学びました。

18:15 夕食、休憩、グループミーティング (キャンプファイアの練習)

19:25 §5 キャンプファイアと歌 (実習) (80分)

担当: 鹿ノ内 (実習)

講堂で模擬ファイアを囲みながら、キャンプファイアと歌のつながりや、キャンプファイアの場面にあった歌の演出の仕方などを学びました。



20:45 スカウトズオウンサービス

担当: 品田

22:30 入浴・就寝

11月11日 (日)

06:30 起床

06:50 クリーンタイム (清掃)

07:15 朝のつどい

07:30 朝食

08:30 朝礼・スカウトズオウンサービス (グループ毎)

担当: 鹿ノ内、山崎



09:00 §6 ボーイスカウトと歌 (100分)

担当: 石原

活動中での歌を時間のある限り歌い、様々な場面での曲を学びました。また、参加者にワークシートを記入してもらい、活動場面ごとに自分の成功体験をグループ内で発表しお互いに学び合うことができました。



10:40 休憩 (10分)

10:50 §7 歌声を広げよう (70分)

担当: 品田

グループ毎に輪唱や合唱、アクションソングなど、歌唱方法などを工夫した歌を発表しました。最後に全員で「花は咲く」を合唱しました。

12:00 閉会式
解散



《参加者の感想》

- ・研修会の目的が明確で段取り良く進めていただき、とてもよかった。新たな気づきやヒントをいただいた。
- ・ソングの背景・エピソード・意味やどんな時に歌えばよいかを教えてもらえてよかった。とても興味深くセッションを受けられた。
- ・各部門や場面 (セレモニー・キャンプファイヤ・集会等) で歌がたくさんあり、もっと知りたいと思った。
- ・「花は咲く」の合唱は感動的で涙しました。

委員長所感（総括）

スカウトソング特別委員会
委員長 石原 徹

熊本会場でのスカウトソング研修会の開催にあたり、21名の参加者（福岡、大分、佐賀、熊本、鹿児島、京都の6県連盟）、4個班体制で二日間の研修会を実施した。両日とも好天に恵まれ、阿蘇山の素晴らしい自然環境と設備の整った「国立阿蘇青少年交流の家」において快適な研修を展開することができた。

また、地元熊本県連盟の事務局や県指導者養成委員会の関係者が、本研修会の開設にあたり献身的にご尽力され、そのおかげで、4名のスカウトソング特別委員会メンバーはセッションに専念できた。改めて、県連関係各位に深く感謝申し上げたい。

本委員会で編集したスカウトソング研修会の運営ハンドブックに基づき、各委員はセッション実施計画書を作成し、共通認識の下で連携・協力し、安定感のあるセッションを展開することができた。

本研修会では、施設利用の制約もあり、セッション数を1つ減らした7つのセッションで構成し、各セッションの所要時間は30分から100分までとメリハリのある時間配分とし、参加者の疲労度に配慮し、研修意欲の持続性の確保に努めた。また、各セッションを複数の委員で分担し合うことにより、セッションの流れに変化をつけるように配慮した。

参加者数が中規模であり、研修の場として利用した講堂の広さは余裕があったため、伸び伸びと実習することができた。

最後に、阿蘇山の懷で、参加者と共にスカウトソングを思う存分歌えたことは、いつまでも思い出として強く残るだろう。